

科目名	教育心理学		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング			
学 科	短期大学部-教職・司書教諭課程		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭二種免許状（国語） / 中学校教諭二種免許状（英語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

人間発達心理学の専門科目として、初学者を対象として、学校教育に活用しうる心理学的知識の習得を目指す科目である。

教職に関する科目のうち、教育の基礎理論についての理解を深める科目である。

科目の概要

教職志望の初学者を主な対象として、学習の過程、および児童生徒の心身の発達について、教育心理学的な知見を学ぶとともに、学校教育現場における具体的な問題についての理解を深める。障害をもった子どもたちの発達、および特別な支援のあり方についても取り扱う。児童・生徒であった、そして学生である受講生に対して、「教える」、「学ばせる」、「学びを支援する」という「教師の立場」から教育・指導や学習活動を客観的かつ分析的な視点からとらえようとする態度を育むことを目指す。

学修目標

教育心理学的な考え方や知識に基づいて、学校教育における学習活動を客観的に理解することができる。さらに、よりよい学習活動を展開するための工夫や特別な支援を必要とする子どもたちの学習活動のあり方について、心理学的知見に基づいて具体的に考えることができるようになる。

内容

1. 教育心理学と学校教育
2. 学習の動機づけ(1) 動機づけのメカニズム、内的欲求
3. 学習の動機づけ(2) 内発的動機づけと外発的動機づけ
4. 学習の基礎理論
5. 教授学習における学習理論
6. 協同学習の理論と実践
7. 学級の心理学
8. 学習の個性化、個別的ニーズへの対応
9. 教育評価
10. 発達(1) 発達の一般的特徴、発達を規定する要因
11. 発達(2) 発達段階と発達課題
12. 学習者の特性理解(1) 知的能力の発達と測定
13. 学習者の特性理解(2) パーソナリティの理論と測定
14. 学習者の特性理解(3) 障がいに応じた特別支援教育
15. 学習のまとめと確認

評価

筆記試験：90点，授業内課題：10点の計100点で、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】事前に配布される課題問題をもとに教科書を読み解答をしておくこと

【事後学修】授業ないで使用/記入したプリントをノートにまとめ直す

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は教職ガイダンスなどで事前に指示する。

科目名	教育方法		
担当教員名	狩野 浩二、安達 一寿		
ナンバリング			
学 科	短期大学部-教職・司書教諭課程		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭二種免許状（国語） / 中学校教諭二種免許状（英語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

本科目は、教育職員免許法施行規則で定められた科目の中で、幼稚園教諭、小学校教諭、中学校教諭、高等学校教諭の普通免許を取得するために、必修と定められた科目である。同施行規則で定められた科目には、「教育方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む）」となっているが、コンピュータ等の操作技法については、高等学校まであるいは大学入学後に「情報処理演習」において十分に学習しているので、操作技法については行わない予定である。

本科目では、「方法・技術」を軽視したり、メディアや情報機器を活用することが「方法・技術」であるとしたりするものではなく、教師が身に付けている方法や技術はきわめて重要であると考えている。

「方法・技術」には、子どもの状態を見抜き、事態の先を見通す洞察力なども含んだ「教師力」そのものであると考えている。その意味において、教員を目指すものには必ず理解し、学修してほしい分野である。

内容

いかに取り扱う内容を示す（順不同）。

テキストの順序に沿っている。

- 1 教育の方法と技術（教育の方法・技術とは何か、子どもの学びと教師の方法・技術など）【狩野】
- 2 授業が目指すものは何か（授業の方法・技術と子ども、子どもの固有性と方法・技術の創造性）【狩野】
- 3 授業の構想と計画（構想と計画の基本的視点、指導案はどう書くか、指導案を支える教材研究）【狩野】
- 4 指導案作成（実習課題）【狩野】
- 5 教えることと支援すること（本気で教えること、学習支援と称して放置すること）【狩野】
- 6 問いの創造と授業の展開（問いの発見から課題の成立へ、授業の構成と学習形態）【狩野】
- 7 教材づくり・教材発掘の視点（教材づくり・教材発掘の視点、教材研究）【狩野】
- 8 授業と教授メディア（教授メディアの変遷、授業はどのように変わるか）【安達】
- 9 コンピュータの利用（コンピュータと現代社会、コンピュータの教育利用の領域と教師の役割）【安達】
- 10 学習障害（LD）の理解と指導（学習障害の概念、LDの要因と理解、指導法）【安達】
- 11 特別支援教育と方法・技術（特別支援教育、Normalization, ADHD）【安達】
- 12 授業と教師（教師の力量、表現としての教師の身体、教師のことば）【狩野】
- 13 教育評価の役割と方法【安達】
- 14 学力と教育評価の課題（予期しない学習の結果、教育的働きかけと評価、学力）【安達】
- 15 まとめ【狩野】

評価

評価は、 授業態度（授業への参加度や、授業中の課題への取り組み状況）を10%、 課題の提出状況と達成度を40%、 最終試験の達成度を50%とし、総合的に行う。全体の60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は、再試験を行う場合があるので注意すること。

授業外学習

【事前予習】テキストの該当箇所を読解し、内容を理解する。疑問点を析出し、追究する。

【事後学修】発表班の内容、班討論の内容等を省察し、振り返りのレポートを作成する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】松平信久・横須賀薫編『新訂教育の方法・技術』教育出版

【参考図書】横須賀薫編『授業研究用語辞典』教育出版，その他教室で紹介する。

科目名	特別活動		
担当教員名	上原 行義		
ナンバリング			
学 科	短期大学部-教職・司書教諭課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭二種免許状（国語） / 中学校教諭二種免許状（英語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は、教育職員免許法施行規則に定める中学校・高等学校及び養護教諭の免許取得に必要な「教職に関する科目」のうち、「教育課程及び指導法に関する科目」に対応するものである。

中学校・高等学校及び養護教諭の免許状を取得しようとする者は、必修であるので留意すること。

科目の概要

特別活動は、学校教育における各教科以外の学習の中心となるものである。しかし学習指導要領に示された特別活動の本質や理念が一般的には十分に理解されているとは言えない。特別活動の目的や方法について正しい理解のもとに指導できるよう下記の学修目標にかかわる事項について具体的に考察する。また、学生が自ら小中学校で体験した特別活動に関する思い出や課題意識を相互に意見交換し、教師として児童生徒の自主的な活動を指導できるようにする。

学修目標

- ・学校教育の今日的課題である「生きる力」の育成に資する特別活動の意義や役割について考察し、特別活動の歴史的変遷や領域ごとの特色について理解する。
- ・望ましい集団活動を組織し、児童生徒が自ら話し合い、協力して実践するための指導のあり方について考察する。
- ・学級活動の授業の進め方について理解し、学習指導案を作成する。

内容

1	1. 学校教育の今日的課題と特別活動	社会動向と教育的課題
2	2. 特別活動の教育的課題	特別活動の特質、性格について
3	3. 日本における特別活動の歴史と変遷	近代日本の教科外活動、戦後における特別活動
4	4. 学級活動の意義と指導の実際	学級活動の意義と性格
5	5. 学級活動の内容・方法・評価	学級活動の指導形態と方法
6	6. 学級活動(2)の展開事例と今日的課題	学級活動の指導案
7	7. 学級活動(1)の展開事例と指導	
8	8. 児童会活動、生徒会活動	児童会・生徒会活動の特質と目標、内容及び指導上の留意点
9	9. クラブ活動、部活動の歴史的変遷と教育的意義	
10	10. 学校行事の目標・内容・指導計画等	望ましい実施と指導上の配慮事項
11	11. 総合的な学習の時間との関係	
12	12. 学級活動模擬授業の進め方について	指導案の検討、模擬授業の準備
13	13. 模擬授業の実践(1) 学生の選んだ主題	
14	14. 模擬授業の実践(2) 学生の選んだ主題	
15	15. 模擬授業の評価とまとめ	

評価

レポート課題60%及び平常の授業態度、提出物等40%により評価を行い、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

授業外学習

【事前予習】教科書等の該当ページに目を通しておく。

【事後学修】本時の学習課題について自分の言葉でまとめをする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】遠藤昭彦、山口満編 『道徳教育と特別活動』教職教育講座 第4巻 協同出版

文部科学省 『中学校（高等学校）学習指導要領』 政府刊行物

文部科学省 『中学校（高等学校）学習指導要領解説 特別活動編』 政府刊行物（ぎょうせい出版）

【推薦書】押谷由夫、宮川八岐編 『道徳・特別活動重要用語300の基礎知識』 明治図書 375.35/D

科目名	国語科教育法		
担当教員名	遠藤 智子、星野 祐子		
ナンバリング			
学 科	短期大学部-教職・司書教諭課程		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭二種免許状（国語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

教員免許取得のための選択科目。本科目では、中学校国語科の授業を行う際の基礎的な知識・技能の習得を目指す。後期の「国語科教育法」は、本科目の発展科目として位置づけられ、連携して国語科教育の知識・実践能力の向上を図る。

科目の概要

まず、中学校国語科の教育内容や基礎的な用語、指導理論について学習指導要領などを手がかりに学ぶ。その後、中学校国語科の具体的な教材に即して、先行の優れた実践例を参考にしつつ、指導案の作成や模擬授業を行う。実践的な活動を通して、諸技法の基礎を身につける。

学修目標（＝到達目標）

1. 中学校国語科教育の目標や内容、各分野の指導理論の概要を理解する。
2. 過去の優れた実践や理論を参考に、学習指導案を作成する力を身につける。
3. 模擬授業等を通して、授業実践の基礎的技法を習得する。

内容

1	オリエンテーション
2	学習指導要領の解説（1）国語科教育の内容と目標
3	学習指導要領の解説（2）改訂の経緯・特徴
4	学習指導案の書き方と模擬授業の方法について
5	「話すこと・聞くこと」の指導法（1）指導理論と実践例
6	「話すこと・聞くこと」の指導法（2）指導案の作成
7	「話すこと・聞くこと」の指導法（3）模擬授業
8	「書くこと」の指導法（1）指導理論と実践例
9	「書くこと」の指導法（2）指導案の作成
10	「読むこと」の指導法（1）指導理論と実践例
11	「読むこと」の指導法（2）説明的文章・指導案作成
12	「読むこと」の指導法（3）文学的文章・指導案作成
13	「読むこと」の指導法（4）模擬授業
14	「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」に関する指導法
15	まとめ

評価

毎回、授業時に提出するレポート類（4割）、演習発表（1割）、期末考査（5割）により評価を行い総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】国語科教育関係の報道に関心を持つことを求めます。

【事後学修】国語科教育関係の本を何冊か読むことを求めます。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】毎回、プリントを配布する。

【推薦書】

【参考図書】『中学校学習指導要領解説 国語編』（文部科学省・東洋館出版社）定価144円
その他、適宜、授業中に紹介する。

科目名	英語科教育法		
担当教員名	福田 仁		
ナンバリング			
学 科	短期大学部-教職・司書教諭課程		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭二種免許状（英語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格：中学校英語二種免許状を取得するために必修の科目です。

科目の概要：中学校で英語を教える際の具体的な指導法に関して、4技能に分けて、理論的背景も学びます。

学修目標： この講座では、学習指導要領に基づき、中学校英語二種免許状の取得に必要な知識の獲得はもちろんのこと、教壇実習に必要な教授法について実践的な指導技術を学ぶことを目標とします。

内容

まず、テキストやモデル授業のビデオを使って1時間の授業の組み立て方を学んだあと、Warm-upに続いてListening、Speaking、Reading、Writingなど具体的な指導法を研究し実践します。学生は教師と生徒の役をそれぞれ持ちまわりで分担し、該当する箇所の指導案を作成します。

第 1 週 授業説明

第 2 週 中学校の英語授業

第 3 週 授業の構成

第 4 週 Listeningの指導（その1）

第 5 週 Listeningの指導（その2）

第 6 週 Listeningの指導（その3）

第 7 週 Speakingの指導（その1）

第 8 週 Speakingの指導（その2）

第 9 週 Speakingの指導（その3）

第 10週 Readingの指導（その1）

第 11週 Readingの指導（その2）

第 12週 Readingの指導（その3）

第 13週 Writingの指導（その1）

第 14週 Writingの指導（その2）

第 15週 まとめ

評価

課題50点、模擬授業50点により評価を行い、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】次週に学ぶ内容に関して、担当教員の指示に従い教科書を熟読しておくこと。また、指導案などの作成をし、模擬授業の準備をすること。

【事後学修】本時で学んだ内容に関して、担当教員の指示に従い復習をすること。また、指示に従い指導案などの修正を行うこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

米山朝二『英語教育・・・実践から理論へ』松柏社

科目名	道徳教育		
担当教員名	上原 行義		
ナンバリング			
学 科	短期大学部-教職・司書教諭課程		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭二種免許状（国語） / 中学校教諭二種免許状（英語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は、教育職員免許法施行規則に定める、中学校・高等学校の免許取得に必要な「教職に関する科目」のうち、「教育課程及び指導法に関する科目」に対応するものである。

中学校二種の免許状を取得しようとする者は、必修であるので留意すること。

科目の概要

道徳教育に対する一般的認識は、歴史的な影響もあって学習指導要領に定められた本質や理念とは、大きなずれがある。道徳教育が目指す人間観や教育観について正しく理解して指導に当たることが出来るように、下記の学修目標にかかわる事項について具体的に考察する。また、学生相互の意見交換を大切に、常に自ら判断し行動できる人間を目指して向上しようとする態度を身につける。

学修目標

- ・道徳教育とは何か、その意義や課題について考察し、道徳教育の本質や理念について正しく理解する。
- ・学校における道徳教育と道徳の時間の果たす役割について理解し、「道徳」の授業のあり方について考察する。
- ・「道徳」の授業の進め方について理解し、学習指導案を作成する。

内容

1	1	学習指導要領における道徳教育の位置づけ
2	2	社会規範としての道徳 道徳教育に関する一般的認識のずれ
3	3	現代社会における道徳教育の課題 青少年の問題状況・現代社会の道徳的問題
4	4	道徳の本質と道徳教育の意義 人間の存在構造と道徳教育・道徳の本質・理論的基礎
5	5	学校における道徳教育の基本構造 学校の社会的任務・道徳教育の目標と内容
6	6	学校の全教育活動における総合的展開
7	7	学校における道徳教育の運営と指導 道徳教育の指導計画・道徳の時間の指導
8	8	「道徳の時間」の指導案と指導の諸方法 学習指導案の作成
9	9	学校における道徳教育の基礎 道徳における行為決定のしくみ・学校における道徳教育
10	10	学校における道徳の授業 どんな資料で何をねらうか
11	11	これからの時代に要求される道徳教育 道徳教育をめぐる動向・道徳教育の新しい発想
12	12	「道徳の時間」の模擬授業の計画
13	13	模擬授業の実践(1)学生の選んだ主題
14	14	模擬授業の実践(2)学生の選んだ主題
15	15	模擬授業の評価とまとめ

評価

レポート課題60%及び平常の授業態度、提出物等40%により評価を行い、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

授業外学習

【事前予習】教科書等の該当ページに目を通しておく。

【事後学修】本時の学習課題について自分の言葉でまとめをする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 遠藤昭彦、山口満編 『道徳教育と特別活動』教職教育講座 第4巻 協同出版

文部科学省 『中学校(高等学校)学習指導要領』 政府刊行物

文部科学省 『中学校学習指導要領解説 道徳編』 政府刊行物

【推薦書】 押谷由夫、宮川八岐編 『道徳・特別活動重要用語300の基礎知識』 明治図書 375.35/D

科目名	生徒指導		
担当教員名	宮川 保之		
ナンバリング			
学 科	短期大学部-教職・司書教諭課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭二種免許状（国語） / 中学校教諭二種免許状（英語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

教育職員免許法に定められた「教科に関する科目」のうち、「生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目」として開講されます。講義内容は、生徒指導が生徒一人一人の個性の伸長を図るとともに、社会的資質や行動力を育成するものであること。そのためにカウンセリング・マインドを高めること、問題行動等の未然防止や学校が組織的に指導育成を進める方策などを学修する講座です。

科目の概要

生徒指導は、学習指導とともに学校教育の重要な機能であること。そして、生徒の人間性の発達を支援することを主目的とする教育活動であること。特に、学級集団において教師が生徒を指導し、自己肯定感を高めたり、自律的に行動する資質や能力を高めたりすること。さらには、家庭や地域社会、教育相談機関等の青少年の健全育成諸機関との連携を図ることなど、事例研究等をとおして学習する。

学修目標（＝到達目標）

*生徒理解の方法を理解し、事例研究法により生徒指導の方策を身に付ける。*生徒の心身の発達に係る概念や発達を促す指導方法を身に付ける。*生徒の意識調査や「風景構成法」の援用により、生徒との善い人間関係づくりや深い生徒理解に基づく指導方法を身に付ける。*いじめや不登校、反社会的な行動の予測と対応、問題行動等の未然防止に係る実践的な指導力を身に付ける。*キャリア教育や自己肯定感を高める指導・援助の方策を身に付ける。

内容

心豊かで、積極的に社会参加し、自己を活かしていこうとする生徒を育成するためには、幼児期から児童期、青年期に至る発達段階のそれぞれの心理的特性、社会的地位、自己概念などを捉える実践的な力量を求められている。また、犯罪心理学の知見から、青少年の非行の予防等に関する知識や指導力を求められる。本講座では、問題解決討議法、役割等技法、事例研究法、シミュレーション技法等を援用し、生徒指導に係る諸課題の解決に資する知識や技能の修得と活用を行う

1	授業の目的と内容及び評価等に関するガイダンス	生徒指導の意義と原理
2	生徒指導と人間形成	生徒指導の理念と現実（生徒指導の機能を活かす学習指導の実際）
3	生徒指導の変遷と課題	生徒指導と教育課程（学習指導案等の検討）
4	生徒指導と人間観	生徒理解とその方法（観察、面接、検査等の実際）
5	生徒指導と人間関係の構築	個別の指導と集団としての機能を高める指導
6	生徒指導と教育相談	カウンセリング・コーチング等の実際（演習）
7	学校不適応と問題行動	犯罪心理学の知見と生徒指導 自己概念の形成と生徒指導
8	不登校の発生機序と要因及び背景（事例分析）	不登校の未然防止と指導・援助の方策
9	いじめの発生機序と構造	ヴァルネラビリティやいじめの許容空間と防止（事例研究）
10	生徒指導の機能を活かす学級経営	生徒会活動や部活動等の指導（集団指導の実際）
11	学校経営と生徒指導の実際（組織貢献力の高揚）	懲戒の在り方と体罰の防止（事例検討）
12	健全育成のための施策の現状と課題	家庭・地域社会・関係諸機関との連携（事例検討）
13	進路指導の実際	各教科等の学習活動とキャリア教育の実際

14	事例研究1（不登校、いじめ、反社会的行動等の予防・未然防止及び問題解決）
15	事例研究2（キャリア教育、職業体験等の実際と指導）、最終試験（小論文）（50分）

評価

各回の小レポート30点、集団討議や事例研究等の成果物筆記試験（20点）、最終試験（50点）を総合して、単位認定する。なお、評価の観点や方法については、第1回目の授業及び学習内容に即して明示する。

授業外学習

【事前予習】 前時に、テキストとして用いる『生徒指導提要』に記された事項を示すので、関連する情報を収取し、授業に臨むこと。

【事後学修】 授業で行った事例検討や学習内容をもとに小論文(小レポート)を作成する。次回の授業の冒頭でこれらの課題を提出すること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 『生徒指導提要』（文部科学省・平成22年3月刊）

【推薦書】 嶋崎政男著『法規＋教育で考える生徒指導』ぎょうせい

【参考図書】 『キャリア教育の手引き』（文部科学省・平成23年3月刊）中央教育審議会答申「次代を担う自立した青少年の育成に向けて」（平成19年1月30日）

科目名	教育相談		
担当教員名	上原 行義		
ナンバリング			
学 科	短期大学部-教職・司書教諭課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭二種免許状（国語） / 中学校教諭二種免許状（英語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

〔科目の性格〕

学級担任としての教育相談的対応のためには、他の教師やスクールカウンセラーとの連携による組織的な指導援助を欠かすことができない。学生自身が主体的に学び、相互に意見交流をする体験を通して、教師として大切な協働の精神や人間関係形成力を身につける。

〔科目の概要〕

学校教育において個に応じたきめ細かな指導を進めるために、児童生徒理解を欠かすことはできない。指導にあたる教師が児童生徒のありのままを受け止め、教育相談的にかかわることができるようにするため、下記の学修目標にかかわる事項について具体的に考察する。

〔学修目標〕

- (1) 教育相談やカウンセリングの歴史及び基本的な理論について理解し、学校教育相談の意義や課題について考察する。
- (2) 学校において生徒指導の中核をなす教育相談の果たす役割について理解し、カウンセリングマインドによる具体的な指導のあり方について考察する。
- (3) 学校教育相談の進め方について理解し、カウンセリングの基礎的な技能を身につける。

内容

- 第1回 学校教育と教育相談
- 第2回 乳児期・幼児期における子どもの問題
- 第3回 小学校における子どもの問題
- 第4回 中学校・高等学校における子どもの問題
- 第5回 発達障害の理解と支援
- 第6回 精神疾患の理解と支援
- 第7回 教育相談の理論
- 第8回 教育相談の技法
- 第9回 学級経営に生かす教育相談
- 第10回 学校で使えるアセスメント
- 第11回 保護者への理解と支援
- 第12回 校内及び関係機関との連携、カウンセリングの実際
- 第13回 スクールカウンセラーの活用、カウンセリング模擬体験
- 第14回 カウンセリング実習(1)身内の問題
- 第15回 まとめ、カウンセリング実習(2)将来の問題

評価

毎回の授業の振り返り、レポート課題、発言等の平常点の評価40%、試験による評価60%により評価する。
合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

授業外学習

【事前予習】教科書等の該当ページに目を通しておく。

【事後学修】本時の学習課題について自分の言葉でまとめをする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

〔教科書〕

「教師のたまごのための教育相談」会沢信彦、安齊順子 編著 北樹出版

〔推薦書〕

「小学校学習指導要領」文部科学省

「学級教育相談入門」有村久春 著 金子書房

「生徒指導と教育相談」教職教育講座第5巻 長谷川 栄、杉原一昭 編 共同出版

科目名	教育実践論		
担当教員名	岩井 雄一、星野 祐子		
ナンバリング			
学 科	短期大学部-教職・司書教諭課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭二種免許状（国語） / 中学校教諭二種免許状（英語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は、教育職員免許法に定める中学校2種免許取得に必要な「教科又は教職に関する科目」（4単位中の2単位）である。

科目の概要

集中講義（特別支援教育及び社会福祉の概要）による事前・事後指導と7日間の現場実習により構成する。

学修目標（＝到達目標）

個人の尊厳や社会連帯の理念について認識を深め、教員としての資質を身に付ける。

内容

1 集中講義による事前指導（4時間相当）

- （1）特別支援教育とインクルーシブ教育
- （2）社会福祉の歴史と社会福祉制度
- （3）特別支援学校の実際
- （4）社会福祉施設の実際

2 現場実習

- （1）社会福祉施設における実習（5日間）
- （2）特別支援学校における実習（2日間）

3 事後指導（2時間相当）

- （1）実習に関する振り返り
- （2）体験報告書の作成について

評価

事前・事後学習における習得状況テスト、実習先の施設・学校からの評価を100点満点として換算し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】居住している地区の社会福祉施設や特別支援学校についてホームページ等で調べる。

【事後学修】実習体験についてまとめる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

【推薦書】フィリア 全国特別支援学校長会編 ジアース教育新社

【参考図書】

科目名	国語科教育法		
担当教員名	遠藤 智子、星野 祐子		
ナンバリング			
学 科	短期大学部-教職・司書教諭課程		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭二種免許状（国語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

教員免許取得のための選択科目。「国語科教育法」の学習を受け、国語科教育に関する一層の理解を深め、授業実践能力の向上を図る。

科目の概要

国語科教育が抱える今日的課題や学習指導法の新しい動きについて学ぶ。その後、自己の創意工夫を活かした指導法の作成や模擬授業の実践を行い、実際に授業を担当する上で求められる能力を培う。

学修目標（＝到達目標）

1. 「国語科教育法」で学んだ基礎的知識・技能を基に、国語科教育の今日的課題や新しい学習指導法について理解を深める。
2. 学習指導案の作成や模擬授業を通して、授業実践能力の一層の向上を図る。

内容

1	国語科教育の今日的課題と新しい学習指導法
2	ディベートとパブリック・コミュニケーション・ゲーム
3	P I S A型読解力とクリティカル・リーディング
4	文学的文章における分析批評と読者論的読みの指導方法
5	論理的な思考力・表現力を育てる授業実践
6	指導案の作成（1）復習
7	指導案の作成（2）発問・評価について
8	模擬授業（主に「話すこと・聞くこと」）
9	模擬授業（主に「書くこと」）
10	模擬授業（主に「読むこと」説明的文章）
11	模擬授業（主に「読むこと」文学的文章）
12	模擬授業（主に「伝統的な言語文化に関する事項」）
13	模擬授業（主に「国語の特質に関する事項」）
14	理解度の確認
15	まとめ

評価

毎回、授業時に提出するレポート類（3割）、演習発表（3割）、期末考査（4割）により評価を行い、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】国語科教育関係の報道に関心を持つことを求めます。

【事後学修】国語科教育関係の本を何冊か読むことを求めます。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】毎回、プリントを配布する。

【推薦書】

【参考図書】『中学校学習指導要領解説 国語編』（文部科学省・東洋館出版社）定価144円。 その他、授業の中で適宜紹介する。

科目名	英語科教育法		
担当教員名	福田 仁		
ナンバリング			
学 科	短期大学部-教職・司書教諭課程		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭二種免許状（英語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格：中学校英語二種免許状を取得するために必修の科目です。

科目の概要：中学校で英語を教える際の具体的指導法に関して、「英語科教育法I」で学んだ基礎知識をもとに、1時間の授業の流れを実践的に学びます。

学修目標： この講座では、1時間の授業全体を通して肉付けをしながら、指導案をもとに効果的な授業展開ができるようにすることを目標とします。

内容

「英語科教育法I」に引き続き模擬授業をすすめながら、日本英語教育史、教科書分析、指導案作成の指導を行います。日本英語教育史では、日本の英語教育の歴史を概観して、さまざまな教授法に触れることにより、現在中学校で行われている英語教授法を具体的な方法論の形で把握します。また、随時英語実力テストを行ったり、基礎英文法の復習などを通して、学生の英語力の向上を図ります。

第 1 週 総合活動（その1）

第 2 週 総合活動（その2）

第 3 週 総合活動（その3）

第 4 週 早期英語教育（その1）

第 5 週 早期英語教育（その2）

第 6 週 評価（その1）

第 7 週 評価（その2）

第 8 週 言語とその指導（その1）

第 9 週 言語とその指導（その2）

第 10週 英語教授法と英語教師（その1）

第 11週 英語教授法と英語教師（その2）

第 12週 教授メディア（その1）

第 13週 教授メディア（その2）

第 14週 教授メディア（その3）

第 15週 まとめ

評価

課題50点、模擬授業50点により評価を行い、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】次週に学ぶ内容に関して、担当教員の指示に従い教科書を熟読しておくこと。また、指導案などの作成をし、模擬授業の準備をすること。

【事後学修】本時で学んだ内容に関して、担当教員の指示に従い復習をすること。また、指示に従い指導案などの修正を行

うこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

米山朝二『英語教育・・・実践から理論へ』松柏社

科目名	教職入門		
担当教員名	高橋 京子、遠藤 智子		
ナンバリング			
学 科	短期大学部-教職・司書教諭課程		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭二種免許状（国語） / 中学校教諭二種免許状（英語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

教育職員免許法に定められた教職科目である「教職の意義等に関する科目」にあたる。

科目の概要

「教師の仕事とは何か」を様々な角度から学ぶ。

- ・教職の意義と教員の役割について
- ・教員の日常の教職生活について
- ・教員の職務内容について
- ・今日的な教育課題について

学修目標（＝到達目標）

教職の制度的側面についての基礎知識を習得するとともに、教職の意義と教員の役割について理解を深め、教職への意欲を高める。

内容

1	学校をめぐる、現代の諸問題
2	専門職としての教師・その法的位置づけ
3	基本的な教育法規の解説と考察
4	学習指導要領の法的意義
5	学校における教育課程編成の意義
6	教員生活の実際
7	研修制度の実際
8	教員の服務
9	学校・家庭・地域社会の連携
10	今日の教育課題の考察（子どもの学力）
11	今日の教育課題の考察（子どもの健康）
12	今日の教育課題の考察（子どもの安全）
13	今日の教育課題の考察（子どもの人権）
14	教員の養成と採用
15	まとめ

評価

毎時間作成する学習票を(40点)、最終試験(60点)とし、総合評価60点以上を合格とする

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容の前提となる事項を確認し、関連する資料に目を通し、レディネスを高める。

【事後学修】授業で学修した内容を確認し、指定された様式に従い学修内容をまとめる。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】「学習指導要領」「小学校学習指導要領解説 総則編」

【推薦書】「教職 基本キーワード1200」(実務教育出版)、「最新教育キーワード」(時事通信出版局)

【参考図書】「学校って何だろう 教育の社会学入門」(ちくま文庫)等、随時紹介する。

科目名	教職実践演習（中学校）		
担当教員名	岩井 雄一、狩野 浩二、高橋 京子、増田 吉史 他		
ナンバリング			
学 科	短期大学部-教職・司書教諭課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭二種免許状（国語） / 中学校教諭二種免許状（英語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

教職課程の総仕上げとして行われる授業です。学生のみなさんが教職に関する科目、教科に関する科目、教育実習、その他で学んだ学修内容を統合して、それぞれが教員として最小限必要となる資質や能力を身につけたかどうかを確認し、不足しているところがあれば、それを補う勉強をします。

履修カルテに基づいて、学生のみなさんと個人面談を行います。その上で、どのような資質や能力が形成されてきたか、不足している資質や能力はどのようなものかを確認し、その不足した資質や能力を補うような勉強を行います。内容によっては、講義や講演を聴いたり、近隣の学校での研究会に参加したり、模擬授業や教材研究を行うこともあります。学生のみなさんひとりひとりに対応した演習を実施します。

教員として最小限必要となる資質や能力を身につけることが目標です。

内容

1	オリエンテーション，これまでの教職課程の振り返る（講義，全体討議）
2	教職の意義・役割・職務内容，子どもに対する責任について理解する
3	教育に関する問題点，社会からの要請を考える（調査演習・グループ討議）
4	教育に関する問題点・自らの課題を発見する（現地調査）
5	自己課題とテーマを発表する（プレゼンテーション，レポート）
6	生徒の生活環境・教育環境を知る（グループ調査演習，事例研究）
7	現在の生徒像からみた望ましい学級経営案の検討
8	生徒の進路指導に関わる社会情勢の調査と理解
9	学級経営案を発表する（プレゼンテーション，レポート）
10	教育実習の振り返りと教科の指導力を考える（講義，グループ討議）
11	教育内容の基本的事項の確認（個人演習）
12	教育方法の基本的事項の確認（個人演習）
13	模擬授業
14	模擬授業
15	まとめ（レポート）

評価

演習・実習への参加態度（4割）、教職履修カルテ（4割）、講義時間中のミニレポート（2割）を総合的に評価して、60点以上を合格とします。

授業外学習

【事前予習】シラバスを参照し、事前に該当部分について報告や問題提議をする準備をしておく。

【事後学修】グループ討議や演習等の内容について取りまとめをし、教師としての自分の適性を考える。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

必要に応じて随時紹介します。

科目名	教育学概論		
担当教員名	綾井 桜子		
ナンバリング			
学 科	短期大学部-教職・司書教諭課程		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭二種免許状（国語） / 中学校教諭二種免許状（英語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

短期大学部教職課程必修科目。

教職課程の基礎科目として各教科の基本となる教育の基本理念、教育の歴史や思想について学習する。また、今日の教育の動き、教育改革の進行など、現代社会の動きと日本、諸外国の状況など、教育現象を広くとらえ、人間形成のあり方にも触れる。

学修目標は以下の三つです。 1) 教育の現在と過去について知る。 2) 受講者と積極的に意見を交換し、教育についての視野を広げる。 教育学の名著を知り、各自の教育観の形成に役立てる。

内容	
1	現代教育の諸課題
2	教育とは - 教育へのさまざまな問い
3	近代的孩子観の誕生と教育 ルソー『エミール』
4	人間の教育 ルソー『エミール』
5	ペスタロッチと「メトード」
6	学校教育と教授 ヘルバルト
7	近代学校の誕生と公教育の成立
8	課題発表
9	新教育運動とデューイ
10	教育制度と学校体系 諸外国と日本
11	学力について - 新学力観とPISA
12	学力向上にむけた取り組み
13	グローバル化と教育
14	課題発表
15	まとめ

評価

課題レポート60点、授業・グループワーク参加20点、発表20点の合計100点とし、60点以上が合格。

授業外学習

【事前予習】教育の時事について、各自、情報を収集する。また、文部科学省のホームページ等を適宜、参照し、教育改革の施策の動向を把握すること。授業の導入時に、各自、発表できるよう準備すること。

【事後学修】授業で扱った教育用語、教職教養の基礎概念について、理解の定着を図ること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】授業時に指示します。

【推薦書】関川悦雄・北野秋男『教育思想のルーツを求めて』啓明出版、2003年

【参考書】『教育思想史事典』勁草書房、2000年

科目名	学校制度論		
担当教員名	黒瀬 任通、廣坂 多美子		
ナンバリング			
学 科	短期大学部-教職・司書教諭課程		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭二種免許状（国語） / 中学校教諭二種免許状（英語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

この科目は、児童教育学科の学生にとっては、「学科専門必修科目」である。

また、教員免許状の取得を希望する学生にとっては、免許取得のためには「必修科目」である。

科目の概要

- 1 毎回の授業ごとに、プリントやノートにまとめたり、考えを記述したりして、学校教育や教育法規等について自分の考えを持つ。
- 2 基本的な学校関係法規についての学修を通して、我が国の学校教育に関する制度やしきみ、また、教育の実施について基本についての理解を深めていく。

学修目標（＝到達目標）

- 1 学校教育に関する基本的な法規と制度について理解する。
- 2 教育法規に関する学習を通して、日本の教育制度についての自分の考えが持てる。

内容	
1	ガイダンス。 教育の目的及び理念等に関する事項、及び法規
2	教育の実施に関わる基本的なこと等に関する事項、及び法規
3	学校の種類・設置等に関する事項、及び法規
4	教育行政機関のしくみ等に関する事項、及び法規
5	学校教育の目的・目標等に関する事項、及び法規
6	学習指導要領等に関する事項、及び法規
7	教育課程の編成等に関する事項、及び法規
8	教科書（教科用図書）等の教材に関する事項、及び法規
9	教職員の組織・職務等に関する事項、及び法規
10	教職員の人事・サービス等に関する事項、及び法規
11	就学・入学等に関する事項、及び法規
12	学級編制等に関する事項、及び法規
13	保健・安全・給食等に関する事項、及び法規
14	学校運営等に関する事項、及び法規
15	まとめ

評価

授業への参加度（取り組み）30%、毎回の小まとめ・小テストなど30%、筆答試験等

40%などにより総合的に評価するものとし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

- 【事前予習】 『必携 教職六法』を使って、基本的な法規などに当たるとともに、主な法規ページにインデックスをつけるなどして、引きやすくなるよう工夫しておく。
- 【事後学修】 使用したノートや参考資料などを見直すことや、授業中に取り扱い学修した法規等を「教職六法」で再度読み直すことなどに取り組む。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 【教科書】 『必携 教職六法』 杉原 誠四郎 監修 共同出版
- 【推薦書】 『図解・表解 教育法規』 坂田 仰・河内 祥子・黒川 雅子 共著 教育開発研究所
- 【参考図書】 『教育法規便覧』 窪田 眞司・小川 友次 著 学陽書房

科目名	教育課程論		
担当教員名	狩野 浩二、増田 吉史		
ナンバリング			
学 科	短期大学部-教職・司書教諭課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭二種免許状（国語） / 中学校教諭二種免許状（英語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

この科目は、教育職員免許法に定められた「教育課程及び指導法に関する科目」のうち、もっとも最初に掲げられている「教育課程の意義及び編成の方法」について学修します。

教員を目指すみなさんが2年生前期に受講し、これから勉強していく各教科（英語・国語など）、領域（道徳・特別活動など）等の指導法に関する科目がそれぞれどのように影響し合い、子どもたちの学習経験を実際に創りあげていくのかを考えることとなります。1年生で学習する「教育学概論」「教職入門」に引き続き学ぶ科目です。このあとは、この科目の学習を生かして、各科目ごとの「教科教育科目」「教育実習」を学んでいくこととなります。

各学校ごとに編成される教育課程の意味がわかること、教育課程と授業との関わりについての意味がわかること、教育課程と児童の学習に関する基礎理論を理解すること、がねらいです。

内容

以下、取り上げる内容について列記します（順不同）。

1. これからの時代における教育課程
2. 教育の目的と方法
3. 教育方法の基礎理論
4. 学習理論の展開
5. 問題解決学習の方法
6. 学習形態と学習指導
7. 教育課程の編成
8. 学習指導要領と教育課程
9. 学習指導要領の変遷
10. 生活科と理科における内容構成
11. 現行学習指導要領の特徴
12. 生活科と社会科における内容構成
13. 授業における教師の課題 ゆさぶり
14. 授業における教師の課題 誤答
15. まとめ

評価

個別学習・組織学習票（20点）と課題研究（80点）を総合し、60点以上を合格とします。

授業外学習

【事前予習】テキストの該当章を予め読み、概要をまとめ、疑問点を整理し、講義に持参します。

【事後学修】班発表の内容や班討論の内容を整理し、予習と引き比べながら振り返りレポートを作成します。次回の講義の

際、持参します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト（教科書）】松田稔樹,星野敦子,狩野浩二,津吹卓『自ら学び考える教職教養 教育課程・制度・法規』学文社、その他配付資料を使います。

【推薦書】斎藤喜博『授業の展開（新装判）』 国土社

横須賀薫『授業の深さをはかるもの』 教育出版

箱石泰和編『授業 = 子どもとともに探求する旅』 教育出版

【参考図書】横須賀薫編『授業研究用語辞典』 教育出版 他、教室で随時紹介します。

科目名	学校経営と学校図書館		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	短期大学部-教職・司書教諭課程		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	司書教諭		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は司書教諭免許を取得するための必修科目の一つであり、司書教諭科目全体の概論としての性格を持つ。

科目の概要

本科目では学校図書館の理念、制度、活動、機能、要素(人・資料・施設)、課題などについて具体例を交えて講義する。なお受講者の理解を深めるために、学校図書館を使った授業事例の紹介や読書指導の実践(ビブリオバトル)をグループワーク形式で受講者に行ってもらおう予定である。

学修目標(=到達目標)

- ・学校図書館に関する基本的な概念を一通り身につけることができる
- ・専門用語を暗記するだけでなく、具体的な実践例を挙げて説明できる
- ・常に「自分が人に説明できるか」を意識して学修すること

内容

1	学校図書館の理念
2	教育課程と学校図書館
3	学校図書館の活動
4	読書センターとしての機能
5	グループワーク1:ビブリオバトル
6	学習・情報センターとしての機能
7	教材センターとしての機能
8	グループワーク2:学校図書館を使った授業事例の紹介
9	司書教諭と学校司書
10	学校図書館メディア
11	学校図書館の施設・設備
12	学校図書館における経営と評価
13	図書館間の相互協力
14	学校図書館の課題と展望
15	まとめ

評価

授業への参加度20%、グループワーク30%、筆記試験50% とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】グループワーク1の準備として、人に紹介したい本を1冊選んでおくこと（ジャンルは問わない）

【事後学修】配布資料を見直しておくこと

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】プリントを配布する

【推薦書】古賀節子編『学校経営と学校図書館』樹村房，2002.

科目名	教育実習		
担当教員名	岩井 雄一、高橋 京子、星野 祐子、坂口 智		
ナンバリング			
学 科	短期大学部-教職・司書教諭課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭二種免許状（国語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

- 1、教職関連科目、教科教育法、教育実習 で習得してきた内容を踏まえて、教育実習 では、実際に学校現場で授業を担当する。これまでに修得してきた、教授、学習、教育方法等に関する知識を実践的な知識に変換し、教員を目指すものとしての実践的能力を身につける。
- 2、学校現場での実際の勤務経験を通して、自身の教職についての適性を見極める。

内容

教育実習協力校における3週間以上の授業の担当（中学校国語科）による教育実習を行う。

評価

実習校からの評価を100点に換算して評定する。60点以上を合格とする。

授業外学習

- 【事前予習】教育実習 の内容と合わせて、実習校について実践的な内容の整理と心構えを作る。
- 【事後学修】教育実習を通して気づいたことをもとに、教師としての今後の自分の在り方について考える。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用しない。参考書等は授業時に指示する。

科目名	教育実習		
担当教員名	岩井 雄一、高橋 京子、星野 祐子、坂口 智		
ナンバリング			
学 科	短期大学部-教職・司書教諭課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	中学校教諭二種免許状（国語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

教科教育法や教職関連科目等によって習得してきた教職に関する知識・理論・方法論を踏まえた上で、実際に教育実習を行うに当たって具体的な事前、中間、事後の指導を行う。この指導により参観実習及び教壇実習の成果を最大限に引き出し、教員を目指すものとしての責任を自覚させ、実際の授業運営能力を向上させることをねらいとする。

なお、本科目は、教育職員免許法に定める「教育実習」の内の1単位に相当する。

内容

- 1、事前指導（8時限相当の時間を配当する）
 - （1）教育実習オリエンテーション
 - （2）実習時における勤務、サービスの心得
 - （3）実習記録の作成法
 - （4）授業の構成と指導案の作成
 - （5）実習校の訪問
- 2、中間指導（4時限相当の時間を配当する）
 - （1）実習時における課題の把握
 - （2）実習日誌の中間提出
 - （3）研究授業及び実習についての指導
- 3、事後指導（3時限相当の時間を配当する）
 - （1）教育実習の総括的反省と今後の課題
 - （2）実習校の訪問

評価

実習校からの評価を参考に100点満点で評定する。60点以上を合格とする。

授業外学習

- 【事前予習】参考資料を基に実習校について調べ、教育実習に対する備えをする。
- 【事後学修】教育実習に向けた疑問等の解消及び実習日誌等のまとめを行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業の際に指示する。

科目名	教育実習		
担当教員名	岩井 雄一、高橋 京子、星野 祐子、坂口 智		
ナンバリング			
学 科	短期大学部-教職・司書教諭課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭二種免許状（国語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

- 1、教職関連科目、教科教育法、教育実習 で習得してきた内容を踏まえて、教育実習 では、実際に学校現場で授業を担当する。これまでに修得してきた、教授、学習、教育方法等に関する知識を実践的な知識に変換し、教員を目指すものとしての実践的能力を身につける。
- 2、学校現場での実際の勤務経験を通して、自身の教職についての適性を見極める。

内容

教育実習協力校における2週間の授業担当による教育実習を行う。

評価

実習校からの評価を100点に換算して評定する。60点以上を合格とする。

授業外学習

- 【事前予習】これまでの教職教養や教科教育法等について整理しておくこと。
- 【事後学修】授業で学んだ事柄と実際に教育実習を行って試みる課題の違いを整理する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用しない。参考書等は授業時に指示する。